

事務事業 No./名 称	■サービス部門 生涯-13調査・整備事業 □支援部門					ザイムスコード及び個別事業名			
主管課	文化財課 関連課 鎌倉国宝館、世界遺産登録推進担当					168	調査・整備事業		
分野名	歴史環境								
目標 (目標値)	文化財を保存し、活用を図る。								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備 考					
	人 口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状 況	決算値	107,245千円	103,556千円	(国・県補助金) ≪186≫34,000 ≪1102≫6,300 ≪166≫5,145 ≪1104≫504					
	(国・県)	45,949千円	48,003千円						
	(負担金等)								
	(一般財源)	61,296千円	55,553千円						
	人員配置数	3.0人	3.0人						
	人件費	28,877千円	28,492千円						
	協働の パートナー	(財)鎌倉風致保存会	(財)鎌倉風致保存会						
事務事業 運営経費	総事業費	136,122千円	132,048千円						
	市民1人当 りの経費	770円	748円						
	対象者1人 当りの経費								
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	横浜市	横須賀市	鎌倉市	小田原市	茅ヶ崎市	20年度	400件	661件
	包蔵地数	2379	475	464	275	214			
	土木工事届出・通知数	84	31	640	187	269			
	発掘調査届・通知数	10	2	36	18	18			
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 埋蔵文化財の出土資料が保管箱(テンパコ)で約29,000箱あり、毎年約800~1,000箱増加しているが、この保管箱(テンパコ)の保管場所の確保と整理を図っていかなければならない。 発掘調査の出土資料の整理や報告書の刊行の遅れを改善しなければならぬ。 発掘調査体制を改善し、発掘調査員の処遇改善や発掘調査の実施開始時期の短縮を図っていかなければならない。							
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 平成18年度から国庫補助を受け、継続事業として過去の発掘調査で出土した資料の再整理を行っている。 (平成21年度末現在累計3,963箱)							
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 埋蔵文化財出土資料の保管箱(テンパコ)の保管場所の確保をしなければならぬ。 発掘調査の出土資料の整理や報告書の刊行の遅れを改善しなければならぬ。 発掘調査体制を改善し、発掘調査員の処遇改善や発掘調査の実施開始時期の短縮を図っていかなければならない。							
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 調査員の確保(正規職員の採用を含む。)と後継者の育成、処遇の改善、発掘調査体制の改善、発掘調査の出土資料の整理や報告書の刊行の遅れの改善、発掘調査の実施開始時期の短縮のために、財団法人の設立と(仮称)鎌倉市埋蔵文化財センターの建設に向けた取り組みを進める。							
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	発掘調査体制を見直し、発掘調査の速やかな着手と資料整理や報告書の刊行の遅れを改善できるよう人員の確保と体制の整備を行う必要がある。文化財の調査研究のために資料を早期に整理し、保管場所・研究施設を確保していく必要がある。			評価結果	改善の必要性	発掘調査体制の改善、出土資料の整理や報告書の刊行の遅れを改善していく必要がある。 出土資料等の埋蔵文化財を保管・研究・活用・公開できる施設等を確保する必要がある。		
A	有				A	有			
課長名		永 井 正 憲			部名・部長名		植 松 芳 子		